

会津地方におけるアスパラガス半促成長期どりを前提とした有機栽培の可能性

福島県農業総合センター会津地域研究所
平成18～19年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

野菜 - アスパラガス - 作型・栽培型、病害虫防除、会津平坦
分類コード 03-35-18236700

2 担当者

芳賀紀之・江川孝二・大竹真紀・室谷朝子

3 要旨

会津地方の半促成長期どり栽培において、有機栽培3年生株での生産性について慣行栽培と比較検討した。

- (1) 有機栽培技術の特徴は、有機JAS規格に適合した有機肥料、紫外線除去フィルム(展張)、防虫ネット(ハウスサイド被覆)、銅水和剤を組み合わせた体系である。
- (2) 生育盛期(8月)の生育量は慣行栽培と同等であったが、茎葉黄化期(12月)では慣行栽培に比べやや劣った。この原因として、有機栽培は株養成期(5月～11月)での斑点性病害の発生が多かったためと考えられた。
- (3) ハウスサイドを被覆する防虫ネットの目合いは1mmより2mmの方が、通気性が改善され、前年より斑点性病害の発病が軽減された。
- (4) 春どり収量は慣行栽培と比べ3割減となったが、夏秋どりは同等であり、総収量は1割減となった。春どりの減収は前年の株養成量が少なかったためと考えられた。
- (5) 以上のことから、会津地方における紫外線除去フィルム、防虫ネット、銅水和剤を利用した半促成長期どり有機栽培では、3年生株での総収量を慣行栽培の1割減とすれば、有機栽培が可能である。

4 その他の資料等

なし